

# 21世紀社会デザインの中での「協働」 ーコミュニティデザインへ向けてー

立教大学大学院  
21世紀社会デザイン研究科  
教授 中村陽一

# 今日の問題意識

⌘ 協働、ネットワーキング、NPO／NGO

⌘ 協働のまちづくり

1. 新たな目標設定（完全従事社会、定常型社会）のなかで
2. <社会の現状と仕組みのミスマッチの改革 & 社会的リスクへの能動的対応>にどう関わるのか
3. 人々の社会参加をどこまで保障し、促進し、実現する社会経済でありうるか
4. 実務家・研究者の責任と倫理—公共性の実現、専門性や知のあり方、etc.

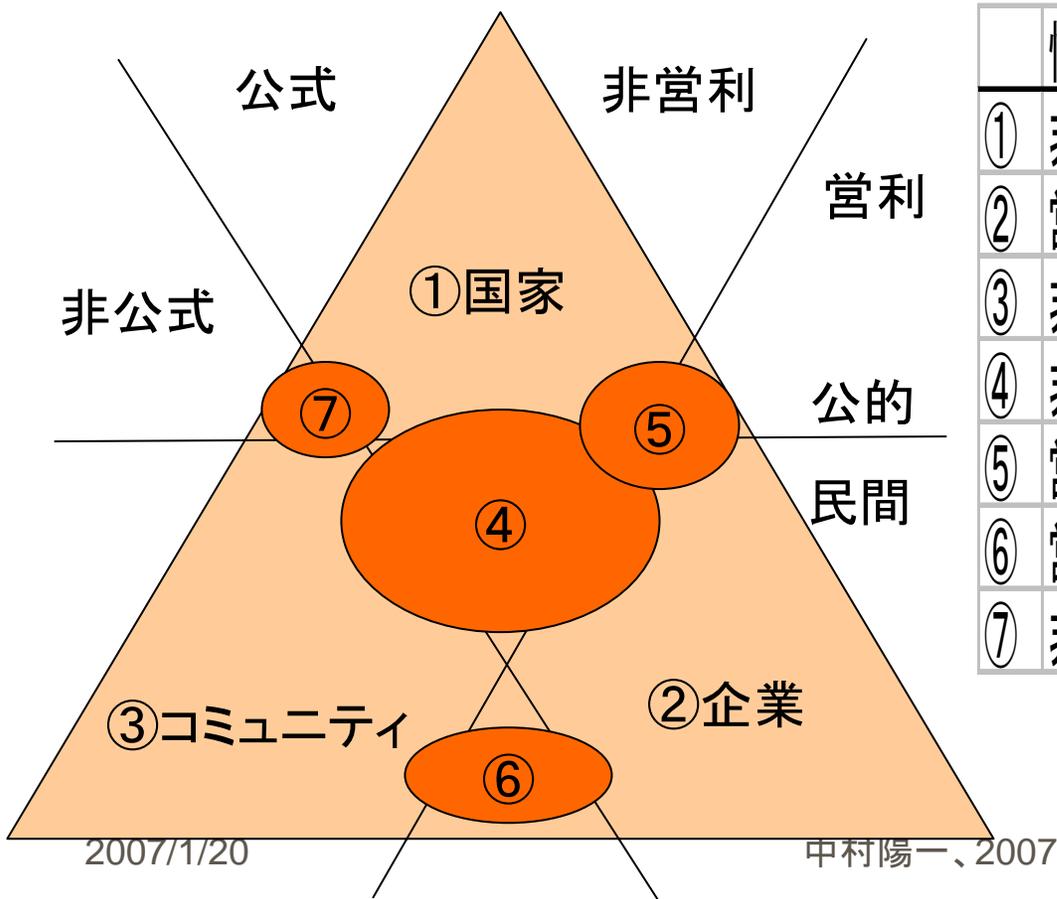
# 21世紀の協働を考えるための点描

- ⌘ 政府税調の動きにみるテーマ群—経済社会の構造変化の諸相と突き合わせつつ
- ⌘ これからの協働における市民ニーズとNPO/NGOの役割
- ⌘ プラットフォームづくり
- ⌘ 社会的企業、コミュニティビジネス

# 0. はじめに

## 21世紀社会デザインの中でのNPO/NGO

### 21世紀システムの中での社会的位置(性格)



	性格区分			組織区分
①	非営利	公的	公式	国家(行政体)
②	営利	民間	公式	民間企業
③	非営利	民間	非公式	コミュニティ(家族・近隣・地域)
④	非営利	民間	公式	NPO等
⑤	営利	公的	公式	公的企業
⑥	営利	民間	非公式	コミュニティビジネス等
⑦	非営利	公的	非公式	

# 1. 市民活動としてのNPO

## ⌘ 各類型前史 :

- (1)「おおぜいの私」と「普通の市民」ー生活クラブ・ベ平連
- (2)地域からのネットワーク化の進展ー生活の場からの「地殻変動」
- (3)「市民活動」の登場と展開ーネットワークキング、ネットワークというキーワード

## 2. 「NPO」という発見

- ⌘ NPO／NGOとは何かーことば・定義・特徴
- ⌘ なぜ(市民活動としての)NPOが注目されたのか
  - ☑ 3つの社会的背景
    - ☑ 活動の量的拡大
    - ☑ 質的变化
    - ☑ マクロな社会変化

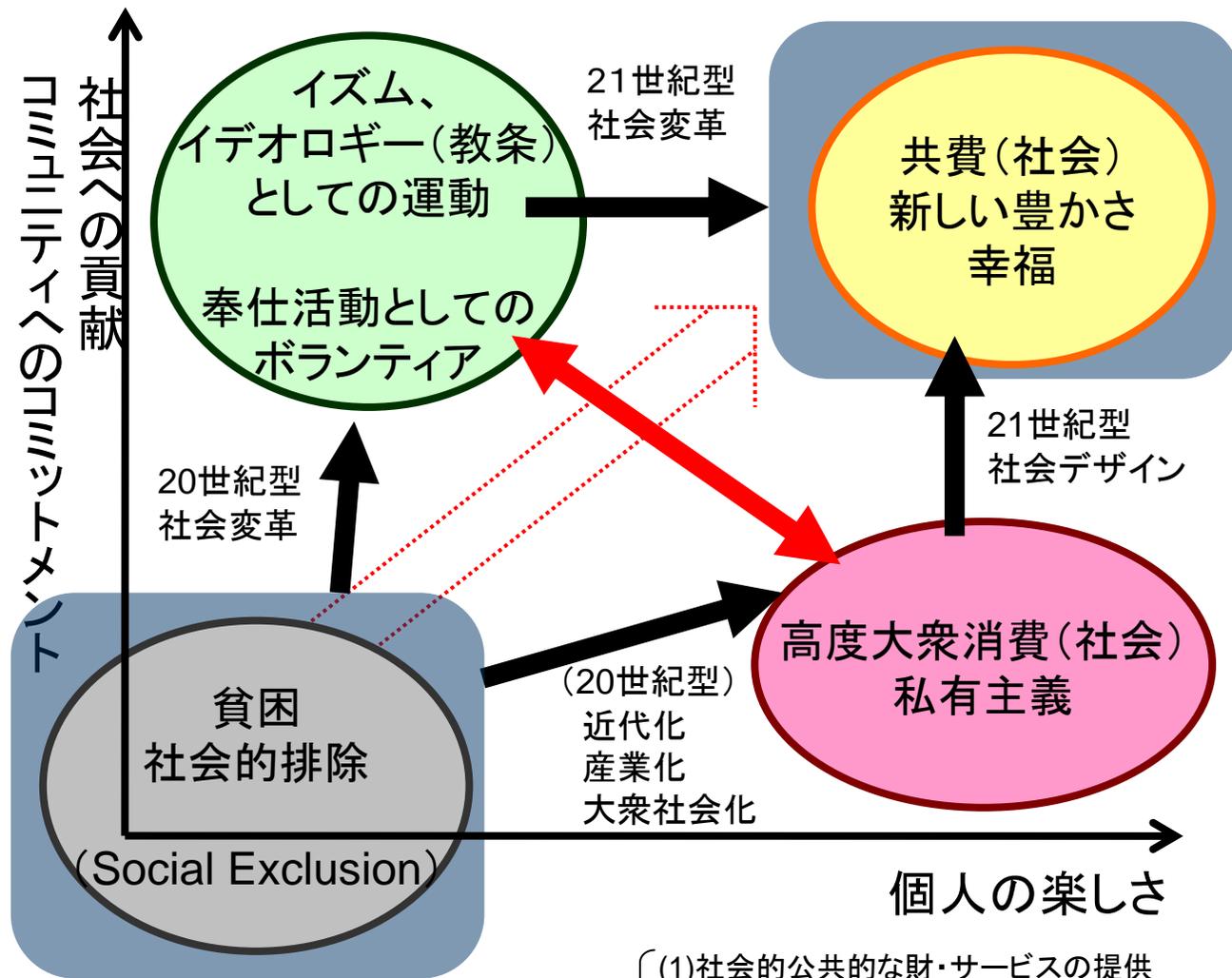
### 3. 現代のNPO／NGOに特徴的な 社会的役割と行動原理

#### ⌘ 4つの社会的役割－公共圏の拡大(新しい社会性・公共性)

- ☒ 社会的公共的な財・サービスの提供
- ☒ 現場からのアドボカシー(政策提言)
- ☒ 個人と(市民)社会をつなぐ新しい中間組織
- ☒ 当事者発の社会的企業

# 3. 現代のNPO/NGOに特徴的な 社会的役割と行動原理

- ✂ 具体的行動原理としてのミッション (notイデオロギー)
- ✂ ネットワーキング (新しい組織論)
- ✂ コラボレーション (協働)



...NPO/NGOの活動領域

2007/1/20

NPO/NGOの4つの社会的役割  
中村陽一、2007

- (1)社会的公共的な財・サービスの提供
- (2)アドボカシー(政策提案)
- (3)個人と(市民)社会をつなぐ
- (4)当事者発の社会的企業

## 4. 特定非営利活動促進法(通称NPO法)の 意義と課題

- ⌘ 法人制度から見た日本の社会経済システムの現状と問題点
- ⌘ NPO法の社会的背景
  - ☒ 法制度と社会経済システムの不備
  - ☒ 活動団体の抱えていた問題
  - ☒ 大切な団体の自立と自律
- ⌘ 市民活動から見たNPO法
- ⌘ NPO法ができるまで
- ⌘ NPO法の主な特徴
- ⌘ NPO税制

# 5. 21世紀社会デザインへ向けての基盤整備と NPO／NGOの可能性・課題

ー組織化・制度化のなかでのエンパワーメント

⌘ (1) パブリック・リソースの構築と循環

⌘ (2) 基盤組織

(インフラストラクチャー・オーガニゼーション)の整備

# 5. 21世紀社会デザインへ向けての基盤整備と NPO／NGOの可能性・課題

## ー組織化・制度化のなかでのエンパワーメント

### ⌘ (3) NPO／NGOと行政

#### ☒ 協働とは何か

☒ 「(cooperation; collaboration)協力して働くこと」

☒ 志や目的／手法が多少違っても、共通の目標に向かって協力関係を結ぶ

☒ 日常的な「顔の見える」関係性を基盤とした具体的な事業

#### ☒ 21世紀社会デザインの中での協働ー注目されるに至った社会的背景

☒ 人びと自らによる第3の部門が政府行政機関と民間営利部門とコミュニティとの間にあってコーディネート役を果たすことが期待されている

☒ 各セクター間、それらに属する多様な組織間での協同関係が社会デザインの鍵

☒ 「効率と公正の同時達成」に、人びとの「連帯による信頼」が付加された新しい公共性・公共圏の担い手

# 5. 21世紀社会デザインへ向けての基盤整備と NPO／NGOの可能性・課題

## －組織化・制度化のなかでのエンパワーメント

### ⌘ (3) NPO／NGOと行政

#### ☒ 協働の考え方と進め方－今後の課題

##### ☒ 意義と目標

- 情報共有によるよりの確な活動展開
- 多様な社会的資源(資金／人材／物財／情報／ノウハウ／信用／など)のより効果的・集約的な活用による社会的課題への対応
- 単独では解決できない社会的課題の解決
- 新しい外部環境により適合したイノベーション(革新)が期待できる

##### ☒ 協働の原則

- 異質性－行動原理・組織原理等の相違(の認識)
- 対等性－具体的な計画の推進過程における対等な関係
- 有期性－一定期間毎の関係性の見直し

##### ☒ 「地域力」「市民力」「ソーシャル・キャピタル」を培うために有効

## 5. 21世紀社会デザインへ向けての基盤整備と NPO／NGOの可能性・課題

－組織化・制度化のなかでのエンパワーメント

⌘ (4) NPO／NGOマネジメント－組織運営と経営管理

⌘ (5) (事業)活動と組織の評価(自己評価・外部評価)と指標  
づくり

－関係性構築のためのアカウンタビリティ

## 5. 21世紀社会デザインへ向けての基盤整備と NPO／NGOの可能性・課題

### －組織化・制度化のなかでのエンパワーメント

#### ⌘ (6) 市民的専門性－経験値の専門的な編集による市民知－ の形成をめざす市民(的調査)研究とアドボカシー

- ⊡ (エンパワーメントの源泉ともなる)NPO／NGOの調査研究能力
- ⊡ 2000年秋の米国調査からもあらためて強い印象
- ⊡ 現場を往復する実践的なNPO／NGO研究のために
- ⊡ 情報と知の集積としての大学とNPO／NGO

#### ⌘ (7) 地域・コミュニティ再生とボランティア・コミュニティ(新しい 公共圏)の形成

## 5. 21世紀社会デザインへ向けての基盤整備と NPO／NGOの可能性・課題

### －組織化・制度化のなかでのエンパワーメント

#### ⌘ (8) 近未来の仕事と組織

##### －「完全雇用社会」から「完全従事社会」へ

#### ⌘ 成果を挙げるコミュニティビジネスの実践的研究のために考 えておきたいこと

##### ☒ 彼我の（実践的）研究水準の差異と「コミュニティビジネス研究会」の 経験から

(1) 概念・定義・範囲・社会的位置と(戦略)目標etc.をめぐる議論を  
しっかりしておくことは、学術研究ではなくとも(ないからこそ)たい  
へん重要

\*ここがないと、実践レベルでの振幅(多様性)に直面したとき(これは必ず直面する)、  
適切な対応ができず、活動(運動)的にも事業的にも政策的にも方向性を見失う

(2) 同時に、事例(分析)の蓄積が重要

(3) そして、上記2点の相互作用が必要

# 5. 21世紀社会デザインへ向けての基盤整備と NPO／NGOの可能性・課題

—組織化・制度化のなかでのエンパワーメント

## ⌘ コミュニティビジネス(以下、CB)の背景と課題

—私の問題意識と絡めて

### ⌘ (a) 歴史的・社会的背景

- ☑ 住民・市民の多様でボランタリーな諸活動の事業化
- ☑ 新たな地域形成の手法としての潜在的可能性への期待
- ☑ 政府行政や民間企業をめぐる変化
- ☑ NPO／NGOなど新しい社会的・経済的主体(のネットワーク)の存在感が拡大

### ⌘ (b) 課題

- ☑ 多義的で曖昧
- ☑ 市場との関わり方や対峙の仕方, 事業のマネジメントやリーダーシップ, リソースや支援の調達
- ☑ 行政との関係のあり方

# 5. 21世紀社会デザインへ向けての基盤整備と NPO／NGOの可能性・課題

## －組織化・制度化のなかでのエンパワメント

### ⌘ 補論 英国の社会起業家の特質(CAN)

### ⌘ 〈参考〉英国の社会起業家－実践的な経験より－

ロビン・ローランド リンクス・ジャパン／CAN

### ⌘ 1. 社会起業家の第一の定義

- ☒ 一般の起業家が富を創造する際に適用するのと同じ事業手法とイマジネーションを、社会的な課題に持ち込むことの出来る人である。

トニー・ブレア首相 1997年の演説より

# 5. 21世紀社会デザインへ向けての基盤整備と NPO／NGOの可能性・課題

## －組織化・制度化のなかでのエンパワーメント

⌘ 補論 英国の社会起業家の特質(CAN)

⌘ 〈参考〉英国の社会起業家－実践的な経験より－

ロビン・ローランド リンクス・ジャパン／CAN

⌘ 2. 社会起業家の第二の定義

☑ 個人や株主に富をもたらそうとするわけではない。

☑ 社会をよりよき場所とするため、社会正義に対する強い思いに突き動かされている。

☑ ビジネスを行うのに必要な技術と原則を用いて、市井の人びと、特に差別されていたり社会的に不利な状況にある人びとの生活に長期的かつ持続可能な変化をもたらそうとするものである。

☑ イマジネーションにあふれ、危険を恐れない。

☑ ビジョンを明確に持ち、コミュニケーション能力に長け、ネットワーク力と資源開拓力を備えている。

# 5. 21世紀社会デザインへ向けての基盤整備と NPO／NGOの可能性・課題

## －組織化・制度化のなかでのエンパワーメント

⌘ 補論 英国の社会起業家の特質(CAN)

⌘ 〈参考〉英国の社会起業家－実践的な経験より－

ロビン・ローランド リンクス・ジャパン／CAN

⌘ 3. 社会起業家の第三の定義

- ☑ ビジネスのテクニックを使って社会的課題に取り組む人びとである。
- ☑ 特徴的なのは、顧みられることのなかった地域の資源に付加価値をつける手法である。
- ☑ 例えば、空き家になって放置されていた建物や地域の人びとに見過ごされた才能などに対してである。

# 5. 21世紀社会デザインへ向けての基盤整備と NPO／NGOの可能性・課題

## －組織化・制度化のなかでのエンパワーメント

### ⌘ 補論2 英国の社会起業家の特質(CAN)

### ⌘ 〈参考〉英国の社会起業家－実践的な経験より－

ロビン・ローランド リンクス・ジャパン／CAN

### ⌘ 4. 社会起業家の特質

- ⊡ ともに働くことがとても楽しく刺激的である。
- ⊡ 他者を思いやるとともに他者を触発することができる。
- ⊡ 他者を通して、あるいは、他者とともに仕事をする。
- ⊡ 必要とされる支援者や資金提供者のネットワークを創ることができる。
- ⊡ チームで働き、バリアを取り去ることができる。
- ⊡ コミュニケーション能力に長けている。
- ⊡ 階層のない組織を好み、無用な官僚的機構を嫌う。
- ⊡ あらゆるタイプ(年齢・性別・民族, そのほかのバックグラウンドなど)の人びとがいる

What can be imagined, can be achieved

## 5. 21世紀社会デザインへ向けての基盤整備と NPO／NGOの可能性・課題

－組織化・制度化のなかでのエンパワーメント

⌘ (9) (民間)非営利・協同セクター : 市民セクター : 本来的な第三セクターの形成